

里みちこ 詩がたりと作品展



「仁多米の詩」を朗読する里さん（左）

全国各地で講演や個展を開き活躍する、詩人・里みちこさん（大阪市在住）の詩がたりと作品展が、三月八日から二十三日まで亀高温泉「玉峰山荘」で開催されました。里さんは数年前に三沢小学校を訪れた際、豊かな自然と素直で純朴な子供たちの姿に魅せられ、一ヶ月のうちの一周間ずつ一年間、子供たちと一緒に学び、奥出雲を「第二のふるさと」として交流を深めています。

今回、奥出雲に寄せる里さんの作品を多くの人に見てもらおうと、奥出雲仁多米（株）や読書ボランティアアポケットの会などでつくる実行委員会が主催しました。会場には、町にプレゼントされた「出雲の奥の／いいね／いいね／いいね／いいね」と文字や言葉を自由自在に表現した「仁多米の詩」など八十八点が展示されました。里さんは、ぬくもりのある語り口で詩を朗読し、言葉の持つ様々な意味や思い、人の命の大切さなどを語りかけ、訪れた人たちは、豊かな詩の世界を楽しみました。

こだわりの産地づくりを目指して！

第四回 仁多米振興大会

仁多米の更なるステップアップを目指す、第四回仁多米振興大会が二月二十三日、カルチャープラザ仁多で開催されました。

奥出雲町とJA雲南が二年に一度開催し、今回で四回目となるこの大会には、仁多米生産者など約三百五十人が集まり、盛大な大会となりました。

はじめに岩田町長が、昨年十一月の全国米・食味分析鑑定コンクールで地元の二団体が金賞を受賞されたことは、米の流通業界が注目する中で、

仁多米ブランド維持に大きな意味があった」と挨拶がありました。

また、県東部農林振興センターの清水恵主任農業普及員から、六年前から始まった「仁多米栽培指針」による堆肥投入による土壌効果が示され、今後も環境循環型減農薬減化学肥料によるこだわりの米生産を推進していくことを確認しました。

次に、同コンクールの総合部門で金賞を受賞した横田特定農業法人ネットワークの梅木重信代表から、金賞までの取り組みと奥出雲の恵まれた風土を生かし、消費者との交流の場を持ち、信頼を深めることが大切」と話がありました。

料理研究家で一味同心塾館長の中村成子さんからは、奥出雲の米づくりや伝統技術そのものがブランド。伝統農法や栽培技術を積極的に情報発信し、米づくりの技を若

者に継承することが必要」とアドバイスがありました。また、長年仁多米を取引きただいている伊藤忠ライスの山田博文常務取締役から、「仁多米に求めるもの」をテーマに講演があり、他産地の取り組みを知ることが必要と指摘された上で、「西の魚沼」といわれる仁多米ではなく、「西の仁多米」として知名度を確立してほしい」と今後の取り組みに期待されました。

参加者は、更なる仁多米ブランドの推進と安全安心な米づくりに向け、意欲を高める大会となりました。



多くの方に参加いただきました

金賞までの取り組みを発表する梅木重信代表

